

西來寺報

二〇一四年 春
第十三号

鬼は外、福は内

立春もすぎましたが、今年は何れ年になく大雪が降りました。

さて、立春といえば一日まえは節分です、節分といえば豆まきが行われます。「鬼は外、福は内」と言うかけ声をいながら豆をまくことを私たちは当たり前のように思っていますが、どうでしょうか。鬼（自分にとって都合なこと）はこないで



欲しい、福（自分にとって都合のいいこと）は来て欲しい。そう思うのは私たちにあって当たり前のことで、誰でもそう願っています。

しかしながらこの当たり前のことの中に、実は自分さえよければいいという身勝手な心が働いています。そして思い通りにならないければ、何でこんなことに、と思い悩むのも私たちです。

仏教ではすべてのことは縁によって起こってくると教えています。その中には私たちにあって都合のいいことも悪いことも起こってきます、都合の良いことばかり追い求め、右往左往しているのが、私たちではないでしょうか。

念佛者の木村無相さんは「ご縁ご縁みなご縁、困ったこともみなご縁」とおっしゃっておられます。「鬼は外、福は内」とはこのような身勝手な私達の心を言い当ててくれているのではないのでしょうか。

平成二十六年（二〇一四年）年回表

一	周忌	平成	二十五年	(二〇一三)
三	回忌	平成	二十四年	(二〇一二)
七	回忌	平成	二十年	(二〇〇八)
十三	回忌	平成	十四年	(二〇〇二)
十七	回忌	平成	十年	(一九九八)
二十三	回忌	平成	四年	(一九九二)
二十五	回忌	平成	二年	(一九九〇)
二十七	回忌	昭和	六十三年	(一九八八)
三十三	回忌	昭和	五十七年	(一九八二)
三十七	回忌	昭和	五十三年	(一九七八)
五十	回忌	昭和	四十年	(一九六五)
七十	回忌	昭和	二十年	(一九四五)
百	回忌	大正	四年	(一九一四)

【門徒Q&A】

煩惱と除夜の鐘

煩惱は仏教の教義の一つで、身心を乱し悩ませ、智慧を妨げる心の働きです。煩惱の根本に貪欲（とんよく）瞋恚（しんに、しんい）愚痴（ぐち）があり、その数は3に始まり、通俗的には108、大には8400といわれます。

眼、耳、鼻、舌、身、意の六根のそれぞれに悩みが6あり、それで36。これを過去、現在、未来にそれぞれ配して108の煩惱となります。

「除夜（じよや）」とは「旧年を除く夜」という意味で、12月31日の大晦日の夜をいいます。

大晦日に鐘をつくことには、除夜の鐘の音を聞いて、この一年の内に作った煩惱を省み、清らかな心になつて新しい年を迎えようという意味があります。

西来寺の梵鐘は横須賀市の文化資産に指定されていますが、この時だけは誰でも鐘をつくことが出来ます。小さい子供は大人と一緒に、大

人は一人で、また恋人達は二人一緒についています。ちなみに今年には百九十五回つきました（新記録かも！）。

往生とは

仏になり悟りを開くために、仏の国に往生生まれることで、往生の本義はただ極楽浄土に往くことではなく、仏になることです。

旧浄土教では特に念仏の功德によつて死後阿彌陀仏の浄土である極楽世界に行き生まれることでしたが、親鸞は即得往生を説き、他力の信心を得たとき、この世で正定聚（本当の人生にめぐめさせて頂いた）というところに立てた）と言うことを明らかにしました。

「立ち往生」という言葉がありますが、本来の意味は立ったまま死ぬことで、現在の意味に転じたのは、弁慶が衣川の戦いで体に無数の矢を受けながらも薙刀を杖に仁王立ちをしたまま死んだという「弁慶の立ち往生」の話に由来します。そこから転じて進退窮まることの喩えとなりました。

修正会

修正会とは年の初めに行われる法会で、その年の生活の目標を立て、心を新たに求道の道を進む決意をします。

西来寺では毎年一月一日十時より本堂にて行われます。着物など晴れ着の方も多く目にも美しい法会です。今年も多くの方に参加していただき、すてきな一年の幕開けになりました。

また年末の本堂の大掃除とお飾りのお手伝いには多くの方がご参加下さいました。寒い中本堂にありがとうございました。



西来寺に遊びに来たカワセミです

西来寺の鏡餅

西来寺では毎年、村瀬米穀様から鏡餅を寄贈して頂いており、それを本堂にお供えさせて頂いています。七寸の大きなもので六握りです。見た目も大変威厳があり立派なのですが、さらに味も素晴らしく「日本人に生まれてよかった！」と心から感じるほどです。「どうしてこんなに美味しいのですか？」と聞いたところ、実は村瀬米穀の役員さんと従業員の皆さんが心を込めて、人の手について下さっているとのこと。最高に美味しいはずですね。

同朋会の新年会にはみなんでお汁粉にして頂きます。絶品のお餅を味わいたい人は是非参加して下さい！

